分　野　：　(1) 小児・成人ぜん息に関する調査
③重症ぜん息患者の増悪予防策

(1)-③

申　請　課　題　名　：表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析

調査研究代表者氏名：長　瀬　洋　之

1　評価項目

5点：大変優れている（A判定）　4点：優れている（B判定）　3点：普通（C判定）　2点：やや劣っている（D判定）　1点：劣っている（E判定）

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
(2) 研究成果目標の達成度	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(3) 研究計画の妥当性	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(4) 研究内容の独自性	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(5) 社会・経済に対する貢献度	2人	4人	0人	0人	0人	4.33
個別評価（第3評価）：(1)(2)(4)(5)の平均						4.54
(6) 総合評価（第2評価）	5人	1人	0人	0人	0人	4.83
全体評価（第1評価）：(1)～(6)の平均						**4.61**

2　記述評価

委員A	全体的に優秀な研究である。 Type 2 low喘息と小児期発症（途中寛解、軽快も含む）の喘息の重症度との関係が解明されるとすばらしい。
委員B	クラスター3のn数が少ない点は指摘する必要があると考えられる。IL-6の重要性を強調し治療の標的という仮説を展開する上でも困難であってもn数を増やす必要がある。好中球性炎症を考える場合、その対象者の好中球の状態、活性化についての評価があるとより病態と好中球の結びつきが明確になると考えられる。さらに研究が発展することを期待したい。
委員C	調査研究により、毎回、興味深いdataを得ていることを評価する。 バイオマーカーの研究では、実地臨床での応用の観点からのアプローチが必須であろう。
委員D	・表現型による関与因子（重症Type2では好中球炎症、IL-6など）を同定できた。 〇Type2 lowのマーカーとしてIL-6,TNCを検証した。 ・表現型によって気道壁肥厚と相関する因子がことなる。 〇つまり、リモデリング寄与分子が異なる可能性が示されたことは興味深い。その本質のちがいは。 ・Type2 lowで若年発症が因子であることは興味深く、小児期治療戦略にもつながる。
委員E	我が国における成人気管支喘息の実相を緻密に解析した研究である。表現型別の増悪予防手法も新たに示されており、臨床現場への応用が期待される。
委員F	適切な計画のもとに着実に成果が得られており、高く評価できる。研究のさらなる展開と成果の国際的な発信を期待する。